

農業經營人材育成事例集



事例5	事例4	事例3	事例2	事例1
<p>一般社団法人 アグリフューチャージャパン</p> <p>〔東京都・一般社団法人〕</p>	<p>学校法人有坂中央学園 専門学校中央農業大学校</p> <p>〔群馬県・学校法人〕</p>	<p>株式会社誠和</p> <p>〔栃木県・農業施設園芸資材企業〕</p>	<p>NPO法人九州 エコファーマーズセンター</p> <p>〔熊本県・NPO法人〕</p>	<p>株式会社野菜くらぶ</p> <p>〔群馬県・農業法人〕</p>
P19	P15	P11	P7	P3
<p>高度化・複雑化する経営に向き合うことができる人材</p>	<p>次世代を担う農業経営者と地域農業のリーダー人材</p>	<p>施設栽培のスペシャリスト人材</p>	<p>個性的で能力のある農業に対する情熱を持った人材</p>	<p>経営理念を持ち、経営を数字で分析して決断できる農業イノベーション人材</p>
<p>仕事をしながら経営マーケティング、組織マネジメント、会計が学べるオンライン研修</p>	<p>全寮制で行う農業経営の知識の習得と他業種の企業での現地実習</p>	<p>先進的な園芸施設を活用した施設栽培のスペシャリスト研修</p>	<p>農業経営者の地域に溶け込む力と実践的農業経営のノウハウを学ぶ研修</p>	<p>プロ農家によるオーダーメイド型の独立就農に向けた研修</p>
<p>経営者の発展段階や経営規模に応じた農業版MBAカリキュラム</p>	<p>ファイナンス、マネジメント等を全寮制で学ぶ若手就農希望者向けカリキュラム</p>	<p>最先端の園芸施設でデータを活用した栽培・経営ノウハウが学べる施設栽培スペシャリスト向けカリキュラム</p>	<p>プロ農家の視点で構成された経営だけでなく、農作業安全、農業気象、村社会などが学べるカリキュラム</p>	<p>自学自習を基本としたプロ農家によるオーダーメイド型の独立就農支援カリキュラム</p>
<p>農業経営者、農業法人の幹部社員他20名先着順 (各講座同様)</p>	<p>募集停止</p>	<p>18歳以上50歳未満で心身共に健康である者18名</p>	<p>農業に対して熱い思いを持つ健康な者、普通自動車免許(AT限定不可)、定員なし</p>	<p>基本マナーを身に付けた者定員なし</p>
<p>各講座1か月半〜2か月</p>	<p>2年間</p>	<p>1年又は2年</p>	<p>1年又は2年</p>	<p>1年以上 (概ね2年以内)</p>
<p>オンライン事例に基づく講義と事例研究</p>	<p>全寮制 講義 現地実習 卒業研究</p>	<p>通学制 講義 実習 企業連携</p>	<p>全寮制 栽培実習 講義 卒業発表</p>	<p>受入農家での栽培実習と経営に関する講義</p>
				<p>研修先農家での実習 ・自学自習及び ・社員から直接指導</p>

目指すべき人材像	主な取組内容	カリキュラムの特徴	応募要件・定員	受講期間	研修方法
----------	--------	-----------	---------	------	------

事例11	事例10	事例9	事例8	事例7	事例6
<p>公益社団法人 ひょうご農林機構</p> <p>〔兵庫県・公益社団法人〕</p>	<p>公益財団法人 いしかわ農業総合支援機構</p> <p>〔石川県・公益財団法人〕</p>	<p>株式会社山梨中央銀行</p> <p>〔山梨県・地方銀行〕</p>	<p>三菱UFJリサーチ& コンサルティング株式会社</p> <p>〔東京都・大手銀行系コンサル事業者〕</p>	<p>アグリコネクト株式会社</p> <p>(注)</p> <p>〔東京都・農業経営コンサル事業者〕</p>	<p>株式会社マイファーム</p> <p>(注)</p> <p>〔京都府・農業サービス事業者〕</p>
P43	P39	P35	P31	P27	P23
<p>地域の牽引役となる 企業の経営感覚に 富む人材</p>	<p>経営マネジメントに 長けた企業の経営感覚 を持つ人材</p>	<p>原価を把握して販売先 と価格交渉ができる 企業の農業経営 ができる人材</p>	<p>県内のトップ層を 目指す農業経営が できる人材</p>	<p>自ら考えて未来を 決める経営戦略を 持った日本農業の 将来を担うトップ人材</p>	<p>独立就農、農業知識の 習得、自産自消など 様々な形で農業と 関わる人材</p>
<p>県内農業を牽引できる 経営感覚に優れた 農業経営者向け研修</p>	<p>就農希望者から プロ農業者まで 県内農業に携わる 人材育成(新規就農、経 営強化など)研修</p>	<p>地方銀行の ネットワークを生かした 企業の農業経営力 が学べる研修</p>	<p>大手銀行グループの 社会経済や政策研究の 成果を生かした 県内トップを目指す 農業経営者向け研修</p>	<p>農業界のトップ経営者 支援のノウハウを 生かした完全招待制の 研究会</p>	<p>農業未経験者でも さまざまな農業人生を 選んで実践できる 力が育つ研修</p>
<p>経営計画書作成をメインに 労務、経営管理等が学べる カリキュラム</p>	<p>就農に必要な基礎技術・知識 の実践的なトレーニング及び 経営力強化を中心に 人材マネジメントなど 総合的に学べるカリキュラム</p>	<p>原価計算するために 必要となる経営、流通、 人材、財務などが学べる カリキュラム</p>	<p>財務、組織・人材の講義と 講義テーマに即した 長時間グループワークに、 先進的な農業法人の視察を 組み合わせたカリキュラム</p>	<p>異業種との連携や 経営ビジョンを持つて 稼ぐ力をつける 完全招待制カリキュラム</p>	<p>どこで、どのような農業を するか決まっていなくても 就農できる力がつく 総合的なカリキュラム</p>
<p>(個人)55歳未満の 認定農業者、 青年農業者 (法人)代表者又は 準ずる者</p>	<p>(経営強化)県出先機関 からの推薦・10名程度 ※就農希望コースは別途 要件あり</p>	<p>応募要件なし 40名</p>	<p>概ね10年以上の 農業経験年数を有し、 売上額が約5千万円 以上の40歳代までの 農業経営者10名程度</p>	<p>会員からの紹介又は 当社からの推薦 定員・特になし</p>	<p>・応募要件は、特になし ・関東校 60名 ・関西校 40名</p>
<p>8か月程度</p>	<p>(経営強化) 10か月 ※就農希望コース は1年</p>	<p>1か月半程度</p>	<p>5か月間</p>	<p>特になし</p>	<p>1年又は 1年5か月</p>
<p>・対面 ・講義 ・現地指導 ・現地視察</p>	<p>・対面 ・講義 ・現地視察 ・発表会</p>	<p>・オンライン ・講義 ・事例研究</p>	<p>・対面 ・講義 ・現地視察 ・グループワーク ・発表会</p>	<p>・対面 ・事例研究 ・意見交換</p>	<p>・オンライン ・農業技術 ・農業経営 ・栽培実習</p>

目指すべき人材像

主な取組内容

カリキュラムの特徴

応募要件・定員

受講期間

研修方法

(注) 株式会社マイファームとアグリコネクト株式会社は、農業経営塾の取組事例も併せて掲載しています。

株式会社 野菜くらぶ

(群馬県)

プロ農家によるオーダーメイド型の
独立就農に向けた研修



人材育成に関する主な取組

野菜等の生産を担うグリーンリーフ株式会社などのグループ会社と契約農家等が生産した農産物の販売や加工などを担う農業法人が、就農希望者を雇用して育成し、独立後もグループと協働できる「独立支援プログラム」による人材育成に取り組んでいる。

人材育成に取り組む背景・目的

グループ内の生産会社であるグリーンリーフで働いていた1人の青年が、急に会社を辞め、移住して就農したが、1年で離農した。このことを知った澤浦代表は、「農業を続けるには、栽培から販売までの一貫したマネジメントサイクルが不可欠」、「多くの作業は、待ったなしで行わなければならないものも多く、そういう意味では自律が求められる、心も含めた研修が必要」という2つの考えに至り、平成13年に独立支援プログラム(以下「プログラム」という。)を始めた。経営理念を持ち、経営を数字で分析して決断できる農業イノベーション人材の育成を目指している。

独立支援プログラム

グループとして販売先への年間安定供給の体制を一層確立し、拡充していくという目的のもと、これから農業経営者として独立していくために必要となる栽培技術・管理や農業経営に関するノウハウを就農希望者に応じてオーダーメイドで指導している。

能動的な就農希望者に限定

農業経営者として独立して、その経営を維持していくために必要な知識・技能を伝えるには、研修期間が最低でも1年以上必要となることから、おおむね2年以内の研修期間である。

独立までのステップ	
説明会	独立支援プログラムの説明会
↓	
選抜試験	面接、作文試験
↓	
採用決定	研修先農家、研修品目を選定
↓	
試用期間	1か月。農業への適性確認
↓	
継続協議	研修継続の可否を相談
↓	
本研修	契約して本研修を開始
↓	
独立協議	独立の形態等を協議
↓	
独立準備	資本金の準備
↓	
会社設立	独立。野菜くらぶと契約

面接時に農業経営のリアルな話や数字を見せると辞退することが多いことやオーダーメイドで指導するため、研修生数は年間1人程度であり、今年は5年ぶりの研修生である。

研修生は随時受入れているが、ホームページでの募集や募集チラシ等の作成はしておらず、募集してから応募してくる人はその時点で能動的ではないため、経営者として不適であるという考えによるものである。

これまでの研修生の属性は様々であるが、社会人経験者が望ましく、これまでの研修生には青年海外協力隊員や1級建築士などがいた。

研修費用については、研修生が当法人に対して、預り金として30万円を支払うことになっており、研修中に発生する費用のために使われる。この預り金は、研修終了時に研修生が法人設立するための出資金や個人で独立するときのお祝い金として同額を研修生へ支払っている。

研修で「やるべきこと」の明確化

プログラムの目的、研修期間中に当社がやるべきこと及び研修生がやるべきことは「運営目的とやるべきこと」と題して文書化されている。目的は、「将来、自分の力で農業を続けたいという意欲のある人を、農業技術の習得から独立後まで全面的にバックアップし、共に汗を流せる仲間づくりを目指します。」というものである。また、当社がやるべきことは、研修生が独立するのに必要な技術面、環境面に加えて資金面での支援で、研修生がやるべきことは、農業経営に必要な知識・技能の習得に加え、当社の経営理念の理解や人間関係の構築が課せられている。

こうして当社と研修生双方のやるべきことを明確化し、研修生が安心して研修できるようにしてある。

野菜くらぶと研修生の「やるべきこと」

野菜くらぶ

- ① 研修生の能力を最大限引き出す
- ② 研修生に合った研修スケジュールの作成
- ③ 研修先生産者の紹介
- ④ 栽培技術の伝授
- ⑤ 勉強会の開催
- ⑥ 日報や面談による研修経過の把握
- ⑦ 施設等の取得や賃借についての助言
- ⑧ 独立の際の資金の相談、出資
- ⑨ 独立後の販路の確保

※文は一部要約したものです。

研修生

- ① 野菜くらぶの考え方、経営理念の理解
- ② 社内や地元での良好な人間関係構築
- ③ 日報提出、不明点や悩み等を隠さず相談
- ④ 栽培技術と段取りを体験を通して学習
- ⑤ 野菜の基礎知識の学習
- ⑥ 農業経営の知識の学習
- ⑦ 農業の知識と使用・散布方法の学習
- ⑧ 農業機械の安全な取扱いの学習
- ⑨ 自ら畑探し、地元での相談、情報収集
- ⑩ 独立の計画策定、独立資金の調達

自学自習と代表の直接指導

研修のカリキュラムは、①日報の提出、②経営コンサルタントや会計士等による農業経営勉強会への参加、③月1回の定期面談、④植物医師、土壌医、気象コンサルタント等からのアドバイスを受けること、



研修で実際の野菜栽培に取り組む受講生

⑤ 農業機械の基本操作と整備と安全性の講習、
⑥ 農業の使用と散布方法の講習という6項目となっている。

農業や経営に関する知識は自学自習を基本としてしているが、日報や面談により研修状況を把握し、澤浦代表をはじめ社員や研修先農家が必要な指導を行っている。

独立を全面的にバックアップ

大規模な生産部門を持ち加工・流通・販売までを行う企業グループを形成している強みを生かし、研修生の独立とその農業経営の継続を全面的にバックアップしている。強力なバックアップがあるため、研修生ははじめから会社を設立して独立就農するという高い目標を掲げ、それを実現させることができている。

具体的には、会社設立のための資本金は、研修生が希望すれば野菜くらぶが50%を出資したり、独立後に生産した野菜等の商品の販路を野菜くらぶが確保する。販路の確保は、一般的な市場出荷以外の方法に取り組む生産者にとって通常は最も苦労するところであるが、研修生は当社グループの一員として販路確保を約束され、まずは、生産や経営管理に専念することができている。

独立する場合は、野菜くらぶとの資本関係、野菜くらぶブランドの使用、販売や手数料、技術指導等のアドバイスなどを定めた業務契約書が取り交わされ、販売面、経営面、人事面、技術面でも必要なバックアップを行っている。

独立後もグループ会社と協働

このプログラムで独立を果たした深川知久氏は、富山県で農業とは無縁の家庭で育ち、大学の農学部で修士課程まで修了後、大手IT企業に就職し栽培



レタス栽培で独立した深川氏（静岡県の農場で）

システムの仕事に従事したが、もっと農業の現実
 即した何かが必要と考えていた。そうした時、会社の
 IT研究会の講師をしていた澤浦代表と出会ったこ
 とが転機となった。当社を訪問する機会を重ね、同
 氏からプログラムの話を聞き「農業をやろう」という
 決心を固め、退職してプログラムに挑戦した。研修で
 は多くの失敗もしたが先輩農家の指導を受けて技
 術習得し、2年後に当社の出資や販路確保等の支援
 を受け、静岡県でレタス栽培の法人を設立、独立
 を果たした。独立直後に台風による塩害でレタスの
 収量が予定より半減する大きな被害に見舞われたが、

先輩農家から「芯が残っているレタスは大丈夫」
 など対処法のアドバイスを心得て乗り切った。澤浦
 代表から「乗り越えられない試験は与えられな
 い」との言葉をもらったことも支えとなった。
 今では約47ヘクタールの農場で21人を雇用
 する経営に成長した深川氏は、「苦労や不安は
 多いがそれ以上に楽しい。従業員の生活に責任
 をもって、相応の給料を払うことができるよう
 に頑張る。」と話している。

農業経営人材の育成と課題

「雇用されて働く人と経営者として独立しよう
 とする人は、就農の入口から違う。」と澤浦代表
 は言う。

経営者になれる人は、お金のプレッシャーを感じ
 ながらも的確な判断ができ、自ら道を切り拓い
 ていくことができる。その方法を習得するのと
 同じくらいに、経営者の育成は、経営者として
 の資質のある者を見出すことも重要である。

同氏は、「農家での研修は、多い場合は3か所
 を経験してもらう。どの作物に取り組むかも研
 修生ごとに十分検討して選択する。研修期間中
 は自らほぼ毎日、研修生にメールを送信して
 フォローを行っている。」というように、研修生
 ごとに合わせたオーダーメイド型で研修を進め
 ている。そして、「人材育成は、グループ全体の

成長を支える糧となるものだが、経営者の育成
 は、会社の規模によっても異なるが、永遠の課題。
 今後も経営者としての資質があり、自らの力で
 道を切り拓いていける人材育成には、時間はか
 かるが、当社はこの育成を毎年継続していくこ
 とで、改善していく。」と語っている。

株式会社 野菜くらぶ

所在地	群馬県利根郡昭和村赤城原 845-1
代表者	代表取締役 澤浦 彰治
設立	1996年10月
売上高	2,870百万円（令和4年度実績）
従業員数	役員10名、正社員15名、常勤パート20名
経営理念	「感動農業」「人づくり・土づくり」
事業内容	農産物等の卸売り、農産物の加工・製造、 作業受託。 取扱農産物等：露地野菜、施設野菜、 工芸農作物

NPO法人
九州エコファーマーズセンター

(熊本県)

農業経営者の地域に溶け込む力と

実践的農業経営のノウハウを学ぶ研修



新規就農
応援隊

人材育成に関する主な取組

独立就農や雇用就農を希望する者を対象に、体系的な農業研修と現役プロ農家による農業実践力の伝授とともに熊本県の就農支援機関と連携して行う研修により、新規就農ができる人材の育成に取り組んでいる。

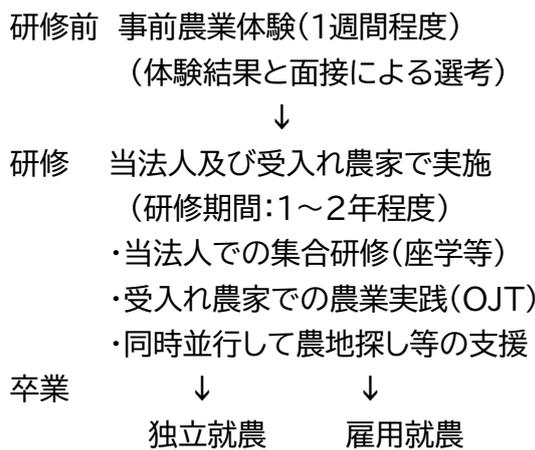
人材育成に取り組む背景・目的

新規就農者として独立し、有限会社木之内農園（熊本県南阿蘇村）を経営している木之内均氏は、新規就農者に対する人材育成の必要性を痛感していたが、平成元年当時は、農業人材の育成は行政や学校が行う「後継者育成」が中心だった。そこで、同年、農業経営力とともに経営者として地域に溶け込む力を身につけさせるため、木之内氏が自身の農園で受講生の受入れを開始し、平成15年には、より多くの受講生の受入れと多様な営農部門に対応するため、木之内農園の研修カリキュラムを基に新たに設立した「NPO法人阿蘇エコファーマーズセンター」で同カリキュラムを参考にした人材育成を開始した。その後熊本県外で就農する受講生が増え、受講生の受入先に県外の農家も加わったことから平成30年に名称を現在のものに変更した。

座学と実習を組み合わせた研修

独立自営農家として地域にとって必要な人材（地域社会に溶け込み共同行事などの役割を果たす者）となるよう育成することを目的としている。NPO法人が独自に作成したカリキュラムモデルに基づいて研修プログラムは行われ、このプログラムは経営に関する座学研修と42戸の受入農家で行われる農業実習で構成されている。

研修から就農までの流れ



農業体験と面接を経た受講生選考

受講生の募集は、新・農業人フェア、熊本県就農相談会、マイナビ農林水産フェスなどのイベントや当法人のHPなどで行われている。また、研修希望者からの相談や研修受付には電話やメールで随時対応している。

応募できる者は、農業に情熱を持ち、人間性が前向きで協調性があることとしており、1週間程度の農業体験（参加者は年間300〜500人）と面接により選考している。選考は、研修修了後に独立就農又は雇用就農が可能であるかを農業体験時の受入農家の評価及び面接時の評価によって行っており、定員は定められていないが毎年5〜10人程度が受講生となっている。

受講生の特徴は、年齢が20代から50代まで幅広いこと、女性が約4分の1を占めていること、かつては熊本県外出身者が多かったが近年は県内出身者も増えていること、社会人経験のある者が多く前職や応募動機も様々となっていることである。

研修期間は1年から2年程度（習得状況や年齢等によって異なるが標準的には2年）で、受講生の負担する費用は2年で36万円（月額1万5千円）とされている。



就農イベントでの受講生募集